

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「笑顔とおもいやり」として3つの理念を掲げ、その中で地域と密着したグループホームを目指すことを含めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲示し、ミーティング等で、より詳しく指導し実践している。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念の掲示。家族には地域とのかかわりを写真や手紙にて報告している。また近所の方には、散歩等を利用し交流を行っている。		
2.地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近くの幼稚園生や先生との交流は年に何度かある(クリスマス・七夕等)。又近所の方とも散歩中に挨拶や会話を行っている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	近くの幼稚園生や先生との交流は年に何度かある(クリスマス・七夕等)。又近所の方とも散歩中に挨拶や会話を行っている。老人会などへは今は参加していない。		独居の高齢者の方がこの地域では多いとの事で、今後は施設を知ってもらい、近所付き合いができるよう工夫していきたい。
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	特に実施していない。		運営推進会議を通じて、町内会の方や地域包括の方等に情報収集し、施設全体で地域の高齢者の方との交流を深めるよう努める。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員で実施。評価を通じて改善点を上げ、実施に努めている。		
8	5	運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度は実施していない。		定期的な会議を実施し、その中で地域の方や家族の意見を聞き、サービスの向上に努める。
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	空き部屋が生じたときの相談、生活保護を受けている方に対しての金銭的な相談等行っている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実施していない。		外部での研修の参加や、内部にて今後学ぶ機会を設けるように努める。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	全職員にて資料で学び、レポートの提出。介護拒否や言葉使い等、ミーティングを通し、理解してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約前より家族と、サービスの内容や金額のこと、退去に関する事等説明し、更に契約の際に十分な説明をし、理解してもらった上で入居の契約を交わしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員は利用者さんが今抱えている不安等を日頃の会話の中で聞き、それを改善に向けて職員で解決できることは行っている。職員だけで解決出来ない事は、家族に報告・相談を行い、協力してもらっている。		
14	7	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	受診の内容・行事の写真・お小遣いの内訳・職員の入社や退職は、毎月郵送にて報告している。また面会時も必要に応じて報告している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に記載、入居の際に説明している。直接管理者や職員に伝わった場合は、すぐに内容・改善点などを書類作成し、職員に周知している。		
16		運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議にて聞いている。管理者との面談を実施。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんの状態を優先し、勤務時間帯の変更を行っている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員がいろいろな認知症の方と関わられるように、約3ヶ月に1度のペースでフロアーの異動は行った。特に利用者さんにはダメージを与えることは無く、フロアーが違っても、交流を交わしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修については計画は特に立ててはいないが、研修内容によって参加職員を経営者・管理者で相談し、積極的に参加を促している。内部研修については、主要な項目については、研修を行っている。		
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取組みまれてはいない。		市内の関連する施設と連携して、現場研修を行っていきたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	業務上で困っていることを議題とし、管理者と1人ずつ面談を行っている。ストレスがたまらない様、内容によっては改善に向けて取り組んでいる。		
22		向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者より、職員の働きぶり等報告している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談にて、困っていること等聞くようにしている。ただ、面談から入居までの間の日数が少ないため、なかなか会う機会がない。		新しい環境の為、混乱を少しでも軽減できるよう、面談から入居前まで、なじみの関係作りができるよう心がけたい。
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学・申込の際に情報収集し、現在困っていることや、入居後不安に思っていることなど聞くようにしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>病院退院後、すぐ入居させたいと希望があったが、対象者が入居を拒んでいるとのことで、面談等していない状況で入居させても、かなりの混乱が生じること等を説明し、居場所が確保できるまで病院で過ごせるようにケースワーカーに依頼してはどうかと提案した例がある。</p>		
26	12	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用対象者に一度見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらってから、入居できるようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>昔なじんでいたことは、利用者さんはきちんと覚えており、特に調理に関しては、よく学ぶ機会が多い。また優しい言葉がけで励まされている。</p>		
28		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>施設側だけでは解決できないこともあるため、報告し一緒に解決に向けて話し合いをしている。</p>		
29		<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>なかなか面会に来られない事情の家族もいる為、手紙や写真で、日頃の生活状況を報告している。面会時は、ゆっくり話ができるよう配慮している。</p>		
30		<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>なじみの場所は施設側でも、家族でもなかなか連れて行くことができないが、なじみの人に関しては、家族の方の協力もあり、会う機会が持っている利用者さんもいる。</p>		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	時々リビングの席替えを行ったりして、利用者さん同士の関係に配慮しているが、時にはトラブルを起こすこともあり、そのつど職員が間に入り支援している。下膳等、他の利用者さんの分までお世話してくれる方や、ひとりひとり声を掛けられる利用者さんもいる。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ほとんどの退去した方は、病院や他の施設が居場所の為、継続的な関わりを必要とすることがない。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活リズムも配慮しつつ、利用者さんの希望にも配慮しすごしてもらっている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	不十分である。		家族が面会に来られた時に、話を聞いたり、遠方の家族には電話にて情報収集したい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間での情報の交換が不十分である。		申し送りだけでなく、情報の交換・共有を、そのつど話し合いの時間が持てれば良いと思う。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	月1回のミーティングで利用者さんの様子を話し合い、計画を立てているが不十分であるところもある。		事前に家族へ連絡をとり、要望などを聞き入れたい。意見やアイデアをスタッフノートに書いていくようにしたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施している。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	受診・往診・ケアチェックシート、温度表を書いているが、情報の共有にかけていることがある。		個人の記録では利用者さんの様子がわかりにくく、会話の内容・表情など記録を詳しく書いていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	掃除や調理等の家事に関するリハビリや、病院で教わった身体的なリハビリ等工夫しながら実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者さん本人の意向では特に実施した例はない。		地域との交流として、ボランティアさんに来てもらい、共通の楽しみを過ごせるように今後は工夫したい。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特に実施していない。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居相談の際に協働は行っている。		今後は定期的な運営推進会議を実施し、更に協働を行っていきたい。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診や受診にて利用者さんの体調の変化など報告している。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要な場合専門医との連携をとり、受診治療を行い病状の緩和を図っている。		
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師の資格と経験を持つ職員がいるので相談している。又は往診を行っているため、往診担当の看護師さんに相談し、受診や経過観察を行っている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	担当医とのムンテラを行っている。入院中はできるだけ様子を見にいこうとしている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	現段階から悪化した場合の説明、改善策等病院や、家族と一緒に相談している。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化ではあるが、利用者さんがここでの生活を望まれる場合、医療処置などここでは行えないことを、訪問看護で補える環境を作れるように、家族や病院、訪問看護と相談している。		



自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ここでの生活状況の報告や、支援における注意点など情報を知らせている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者さんの知り得た情報は、十分な管理をしている。また、利用者さんの自尊心を考慮し、コミュニケーションを図っている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	強制はせず、利用者さんがスムーズに行動できるよう、わかりやすい説明で理解してもらっている。必要によっては一度拒まれても、声かけする職員を変えたり、時間を置いたりしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	生活リズムも配慮しつつ、利用者さんの希望にも配慮しすごしてもらっている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	カットはほとんどの方は同じ美容室の方に訪問してもらっている。1名はなじみの美容室の方が訪問で対応してもらっている。こだわりをきちんと表現できる利用者さんについては、尊重し対応している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	決まった献立を作るだけでなく、嗜好に合わせて内容を変えたりしている。嚥下障害のある利用者さんには、きちんとバランスよく食事が摂れるよう、きざんだり、トロミをつけている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコやお酒を嗜む利用者さんはいないため、水分補給時は、利用者さんの嗜好に合わせて対応している。		
56		気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日中活動時間は、なるべくオムツの使用を軽減している。排泄チェックを行い、必要に応じて声かけし、排泄の誘導・介助を行っている。便秘症の方は、薬等の調整をし体に負担がかからないよう配慮している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴チェックを確認し、必要時声かけし入浴してもらっている。拒んでいる時は、強制はしないようにしているが、必要によっては、声かけする職員を変えたり、時間を置いてからまた声かけするなど工夫している。		
58		安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活リズムを保てるように配慮しながら、なるべくその時過ごしたい気持ちを考慮しながら休息してもらっている。眠れない時は、話を聞いて安心してもらってから眠ってもらうように対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	カラオケや散歩、裁縫等趣味やその時の利用者さんの思いを考慮し、過ごしてもらっている。1日2回体操する時間を設け、身体的だけではなく、皆で参加できる楽しみごとを行っている。		
60		お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理ができる利用者さんがいないので、今後支援方法を考えたい。		その時の天候や利用者さんの希望によっては、一緒に購入しに出かけるなどしていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	全員ではないが、時間や余裕のあるときは、散歩やごみ捨てと一緒に行き、外で過ごす時間を提供している。		実施できていない利用者さんにも平等に行っていききたい。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事など予定を立てて外出する等実施している。		車椅子の方が多いため、外出先にも限度はあるが、もっといろいろな所へ出かけたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人自ら意思表示をしたり、字をかけることが出来なくなっているが、職員が間に入って代弁したり、代筆したりしている。		家族側にも、コミュニケーションがとれるように、要請したい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間も特に定めず、いつでも気軽に来て頂いている。又居室でゆっくり過ごしてもらえるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	資料を使い、全職員に資料を読んでレポートを提出。身体拘束委員会メンバーは全職員。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は朝の7時くらいから夜19時くらいまでは鍵を掛けていない。居室やトイレの鍵を利用者さんがかけてしまうことがあるが、コインで開けて中の様子を確認している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	実施されている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者さんの私物で危険なもの判断した場合は、預かったり、家族へ返却している。洗剤や包丁等職員が扱うものは、不十分なところがある。		刃物類は施錠できる場所へ保管したり、洗剤も利用者さんの手の届かないところに保管する等工夫したい。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	実施されていることと、できていないところがある。		職員それぞれが気をつけているが、よりいっそうの知識を学び、状況に応じた防止はできるように研修などをしていきたい。
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一部不完全である。		マニュアルの作成や、定期的な内部研修を行って、全職員対応できるようにしたい。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	実施されていることと、できていないところがある。		地域との密着をよりいっそう深めていかなければならない。
72		リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	実施されている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日1回バイタル測定。また体調が悪そうなときも、測定し観察している。		
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	9名分の多種多様な薬の目的や副作用は理解するのは困難であるが、自己で調べる、薬剤師さんに聞く等対応している。新しく処方された薬には、特に注意点等確認はして理解するようにしている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	排便の有無については、毎日申し送りしており、便秘が続くようであれば薬で調節している。		水分摂取等気をつける。
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後実施されているのは数名。他は1日1～2回される。声かけはするが、自立されている利用者さんの口腔内の確認はできていない。		毎食は難しいが、定期的な観察をするようにしていく。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定時(毎食・服薬・おやつ等)の水分補給時は、残さず飲んで頂けるよう声かけしている。それでも足りない利用者さんには更に勧めている。また水分の摂りすぎにも配慮している。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者さん・スタッフ共に毎年インフルエンザ予防接種実施。その他感染症に関しては、下痢・嘔吐・発熱が生じた段階で受診。春に数名同じ症状が出た際は、保健所に報告・相談してきた。		内部研修を定期的実施する。

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎食時台所の衛生に気をつけている。また調理器具や冷蔵庫の消毒を行っている。食品の日付を付けている。業者より届く食品で傷みがあるものは、きちんと報告をし、交換してもらっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>近隣との距離が無い為、建物周辺の工夫は難しいが、少ないスペースで花を植えたり、ベンチを設置する等している。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに飾りを変えたりいろいろと工夫をしている。</p>		<p>不快なこと(朝の強い日差し)があった場合は、速やかに対応するようにする。</p>
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>限られた環境の中で、工夫をするようにしている。</p>		
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前の説明で、使い慣れた家具等を持ってきてもらうことで、早く環境に慣れると伝えている。又昔の写真等利用者さんが安心するものなるべく用意してもらっている。</p>		
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>天気の良い日は窓を開け、空気の入替えなどをし、温度にも気をつけている。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーにはなっているが、歩行の障害になるものがないか等、日常生活の中で気をつけている。</p>		<p>窓際の手すりが回転する為、固定できるようにしたい。</p>
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者さんに応じて居室内の衣類の保管場所をわかりやすくしたり、日用品の配置場所に気をつけている。</p>		<p>「危ない」等と言って何もやらせないのではなく、見守りできるような時間を作り、できることはしていただけるよう、皆で取り組んでいきたい。</p>
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>近所の公園にホームの花壇ができ、球根を一緒に植えたり、お世話をすることができるので、今まで以上に外へ行く機会が増えると思う。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果 印欄 (該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない



サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設周りに自由に使える土地が無い為、市役所の緑園課に依頼し、補助金を頂き、近所の公園に施設が管理する花壇を秋に設置しました。今年は球根植えだけでしたが、今後はきちんとした管理ができるようになり、利用者さんの楽しみごとができると思います。